

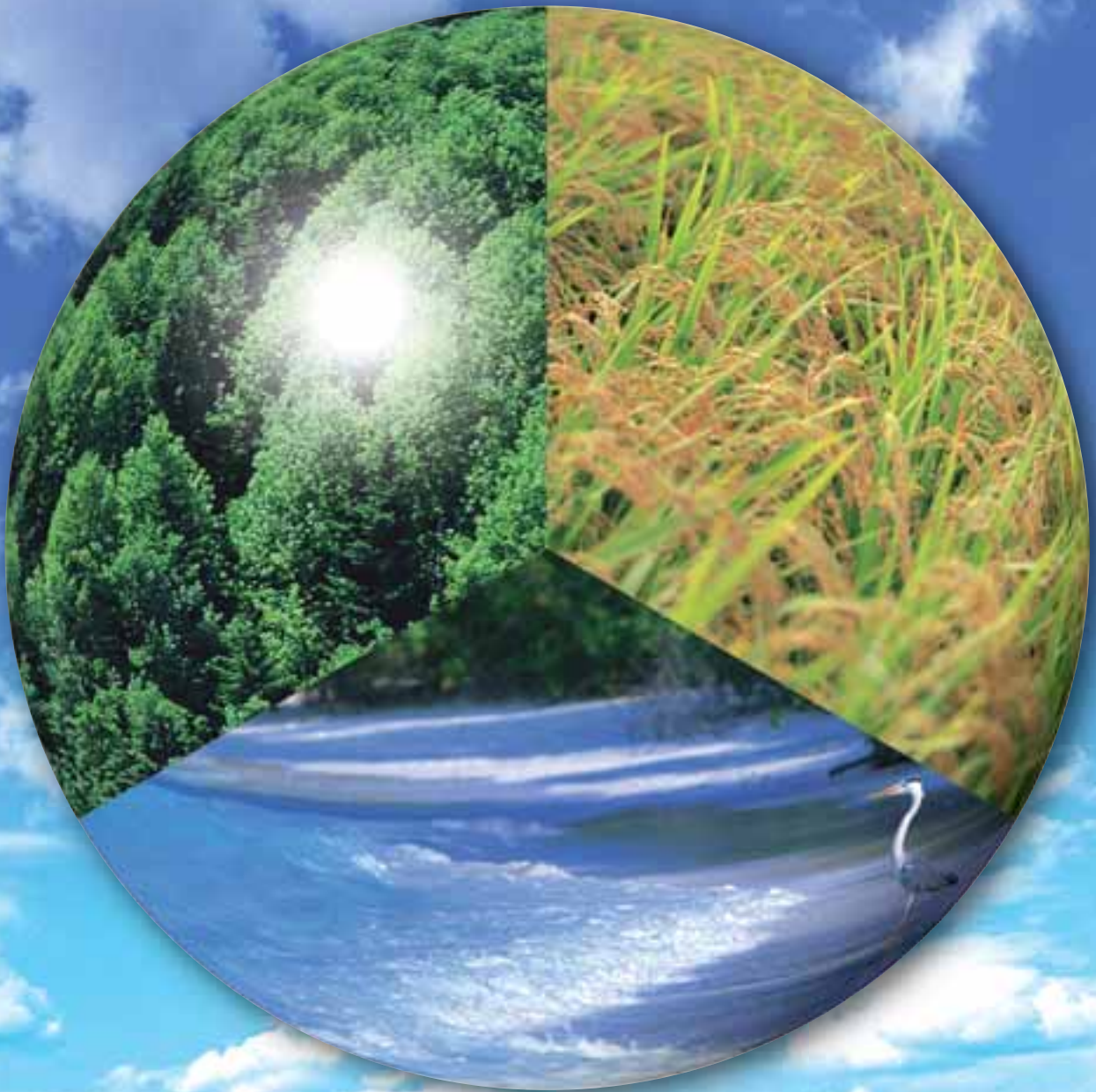


おいしい笑顔をお届けします

# 環境報告書

2007 Environmental Report

Shimadaya Corporation





代表取締役社長

木下紀夫

### ごあいさつ

今年も食品業界においては、原料の偽装問題等の報道により、お客様の「食の安全性」への関心・要求はますます高まる傾向にあります。また、昨年末より続いている原材料や資材の高騰は食品業界の収益を圧迫してきております。

このような環境の中、シマダヤは今年、質的経営を重視する方針で取り組み、従来のように量の拡大に軸足を置かず全てにおいて質を改善することで、シマダヤのコンセプトであります「おいしい笑顔をお届けします」を推進していきたいと考えております。

2003年度にスタート致しました環境取り組みは、2004年7月にはISO14001認証を取得し、2007年2月に審査登録更新もでき順調に進んでまいりました。昨年度は、全従業員の環境意識を高めるために、社内研修の強化や、環境推進事務局からの積極的な説明会等を実施し、ほぼ全ての項目で目標を達成することができました。しかしながら、課題もまだ残っており、特に部門別の取り組み姿勢の「バラツキ」がある等、若干過渡期にさしかかった感があります。

2007年度は、全部門が共通の目標を持ち、1年毎ではなく3年間の中期環境目的・目標に取り組み、引き続き継続的に改善を進めていく所存であります。環境問題の取り組み成果を上げる為には、あまり一度に手を広げずにできるだけテーマを絞って集中する必要があると思います。また、遅くとも2009年度までには子会社を筆頭にグループ全体に環境取り組みを広げていく計画であります。

食品メーカーとして、お客様の信頼を得る企業として、質的な経営を重視し一歩ずつ社会的責任も果たしていく所存であります。

Shimadaya Corporation

# Environmental Report 2007

## シマダヤ環境基本方針

### 環境理念

小麦とそばと塩と水。「めん」は自然の恵みそのものです。シマダヤは、自然環境と企業活動の調和の重要性を認識し、めんを中心とする事業活動を通して環境保全に取り組み、健全で豊かな社会の実現に貢献します。

### 環境行動指針

- 1. 環境関連法規の遵守**  
社会の一員として環境保全に取り組み、環境関連の法規制その他の要求事項を遵守します。
- 2. 資源、エネルギーの有効利用**  
資源、エネルギーの節約、有効利用に取り組みむとともに、廃棄物の削減、再資源化により環境への負荷の低減に努めます。
- 3. 継続的な環境改善**  
事業活動のあらゆる面において環境に配慮し、絶えず見直し、継続的な改善に努めます。
- 4. 環境保全意識の醸成**  
情報収集及び教育を積極的に行い、従業員一人ひとりの環境に対する意識の向上に努めます。
- 5. 情報の公開**  
環境基本方針及び環境保全活動に関する情報を広く社内外に開示します。

## 会社概要

社名	シマダヤ株式会社	社名	東京シマダヤ株式会社
設立	1949年3月(創業1931年)	設立	2004年4月1日
資本金	10億円	資本金	5,000万円
代表者	代表取締役社長 木下紀夫	代表者	代表取締役社長 大星由雄
従業員数	318名(2007年3月現在)	従業員数	110名(正社員 27名 2007年3月現在)
事業内容	めん類及び関連食品の販売	事業内容	ゆでめん類製造・販売
本社所在地	東京都渋谷区恵比寿西1-33-11	所在地	東京都昭島市武蔵野2-1-22
売上高	354億円(2007年3月期)		
事業所数	本社:1 支店:3 ロジスティクスセンター:1 開発研究所:1 品質管理センター:1 事務所:2 <small>(※2007年4月の組織改編により事業所数変更)</small>		

URL <http://www.shimadaya.co.jp>

## 対象範囲

対象組織	シマダヤ株式会社 東京シマダヤ株式会社
対象期間	2006年4月～2007年3月(活動については直近のものを含む)
対象分野	環境的側面に関する事項
発行	2007年8月発行(前回発行2006年10月) (次回発行は2008年8月予定)

## 体制を整え、継続的な改善に取り組んでいます

### シマダヤの環境保全活動について

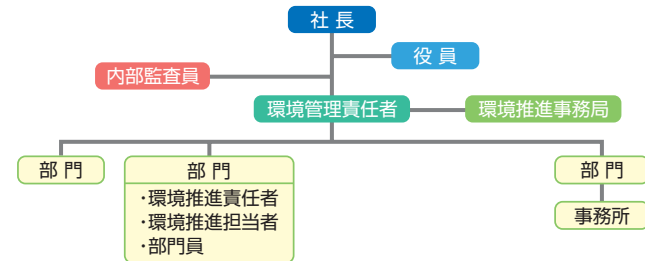
当社の環境保全活動は、現在シマダヤ(株)(営業・管理・研究開発・物流)と東京シマダヤ(株)(製造工場)が一丸となり進めています。活動の基本的な単位は「部門」です。各部門において、部門の業務に沿った目的・目標を掲げ、プログラムを実施しています。シマダヤ(株)と東京シマダヤ(株)は会社組織が異なりますが、環境マネジメントシステム上は東京シマダヤ(株)をひとつの「部門」として捉えています。

今後は、子会社を皮切りにグループ会社にも環境マネジメントシステムの導入を進めていく予定です。

### 活動の推進役と役割

全社の推進役	社長	全社の活動の最高責任者
	環境管理責任者 環境推進事務局	全社の活動の責任者 環境管理責任者の補佐
部門の推進役	環境推進責任者	部門活動の責任者。原則として部門長。
	環境推進担当者	部門活動のリーダー。各部門1名以上。
事業所の推進役	事業所責任者	事業所単位の課題に関する責任者。複数部門が属する事業所や環境推進責任者のいない事業所(事務所など)に設置。

### 環境推進組織図



### 2006年度環境目的・目標達成状況

環境活動3年目として、以下に掲げた4つの柱に基づいた活動を行ってきました。詳細は各ページをご覧ください。

成果重視の環境活動の展開

P6以降

全社環境パフォーマンスの改善

P9-10

環境情報の公開

環境報告書2006を発行しました。従業員に配布し、部門毎に説明会を開催して内容を共有化しました。営業取引先、仕入先等に配布し当社の環境取り組みについてご理解をいただきました。また、当社ホームページに環境報告書の内容をpdf形式で掲載し、公開しました。寄せられたアンケート回答を集計し分析した結果は、今号を発行する際の参考にさせていただきます。

#### 【評価いただいた点】

- 削減できていない項目についても隠さずに載せているので、今後も努力していくという姿勢が伝わりとてもよかったです。
- 環境への意識向上への取り組みで、社内LANを上手に活用されているのが興味深く感じました。自社でも活用したいと思いました。
- コンパクトにまとめられ読みやすさを感じました。
- 環境問題に全社を上げて取り組み成果を出しておられ、すばらしい企業であると思います。

#### 【アンケート結果と対応】

ご意見	対応
この取り組みを消費者の方々にも広く伝えていくべきだと思います。	シマダヤのHPに、環境報告書(pdf形式)の内容を掲載しました。
具体的な活動内容をもっと知りたいと思います。	2007年版は、具体的な活動事例を掲載しました。
方針は理解できるのですが、各論になると目標や実際の進捗に弱さが目立つと思いました。	中期環境目的・目標を設定し、部門ごとのフォローを強化していくことにしました。
更に各部門が業務の取り組みの中でCO <sub>2</sub> 排出量の削減を進め、より高度なレベルになることを期待します。	法人として「チーム・マイナス6%」に参加しました。データを共有化し、部門の業務の中で取り組んでいます。

環境教育の充実

P8

## 共通の目標を設定し、継続的な改善を進めていきます

### 中期環境目的・目標を策定しました

当社ではこれまで、毎年設定される環境目的・目標指針に基づき各部門で目的・目標を立て、その目的・目標を達成するためのマネジメントプログラムを作成し、日々それぞれの立場で業務として取り組みを行ってきました。今後は、全社をあげて更に取り組みを強化すべく、まず2006年11月11日に役員・部門長を対象に研修を

実施しました。その中で、3年後のシマダヤのあるべき姿を想定し、それらを達成するための課題を抽出しました。それらをまとめて、全社の中期環境目的・目標を策定しました。

今後は年度毎に進捗を評価し、継続的改善を行いながら3年後の目的達成へ向けて全社で取り組んでいきます。

#### 中期環境目的

環境目的	該当部門	部門の取り組み
廃棄めん重量削減 50%削減(05年度比)	営業部門	商品廃棄の削減、およびサンプル商品の有効利用
	生産管理部門	製品廃棄の削減、および冷凍製品の日付後返品を無くす
	東京シマダヤ	廃棄めんの削減(05年比30%)
	開発部門	生産技術改良などによる保存期間延長商品の開発
容器包装重量削減 30%削減(04年度比)	開発・生産管理部門	トレー不使用包装化・最適包装性の追及
		容器包装リサイクル法に基づく重量削減(04年度比30%)
廃棄資材削減 30%削減(05年度比)	営業部門	販促物廃棄数を削減する
	開発・生産管理部門	原料・資材の集約化による不要資材削減
炭酸ガス排出量削減 10%削減(05年度比)	管理部門	施設設備改善・更新、車両の見直し(電気、ガソリンの削減)
	東京シマダヤ	重点活動による重油(05年度比10%)、電気(05年度比5%)の削減

#### その他の環境取り組み

環境目的	該当部門	部門の取り組み
社会貢献の拡大	管理部門	環境コミュニケーションの拡大
社外等へ間接的な環境影響を及ぼす目的	全部門	廃棄物の分別・リサイクル推進、事務用品等のグリーン購入
	営業部門	環境配慮型商品の売上拡大、工場直送の推進
	東京シマダヤ	地下水揚水量の削減、騒音対策
	生産管理部門	物流委託先への要請・在庫管理

### 廃棄物リサイクルガバナンスについて

シマダヤでは、3Rの促進による、廃棄物排出量の削減、ならびに廃棄物の適正処理委託契約を進め、廃棄物の分別や保管および適正な処理委託などにより、廃棄物が不法に投棄されることを防止するため、2007年度内の確立を目指し、廃棄物リサイクルガバナンス体制の整備を進めています。

2006年度中に廃棄物処理契約の全ての見直しを行い、管理台帳を作成しました。今後は管理体制を整備するため、責任権限の明確化、様式の統一、従業員教育の実施および監査体制などを構築し、実効あるものにしていきます。

またこれらの取り組みは、2009年度までに子会社を筆頭にグループ全体に広げる計画です。

リサイクルは、紙、段ボール、食品残さ、廃棄商品を主に、各事業所で実施しています。リサイクルの実施状況は9-10ページのグラフをご覧ください。

### グリーン調達について

環境取り組みは自社だけでなく、仕入れ先、製造委託先、物流委託先などグループ会社、関連企業を含めた取り組みが必要とされています。

2006年春に「仕入れ・委託先等への「環境取り組みの要請」」を盛り込んだ「環境配慮の商品開発の指針」を策定しました。それに基づき、各社の環境取り組みの状況についてアンケート調査を実施しました。アンケート結果と環境報告書を送付し、フィードバックを行っています。

これからは、シマダヤとの取引の大きさによりグループ分けし、それぞれ具体的な施策および目標を定め、取引先へ環境保全の取り組みについて継続した要請を行っていきます。

## 法規制等を遵守し、緊急時に備えています

### 法規制等を遵守するために

当社では、環境関連の法規制等を遵守するために毎年定期的にチェックを行い、適正に管理を行っています。

まず、当社に關係のある法規制等を「環境法規制等登録簿」に掲載し、法規制等毎に内容・届出書類の有無・管理者の必要性・管理部門などがわかるよう一覧にして、社内に公開しています。毎年、法改正の確認、事業所に対しその地域の行政等から法規制等に関する指示などがなければ確認を取り、必要に応じて改訂しています。

「環境法規制等登録簿」を基に法規制等の管理部門に対し、毎年

1回その部門が管理する法規制等の内容を掲載した「遵法性チェックリスト」を送付し、遵守されているか、逸脱がないか確認をしています。万が一、部門で見落としした不適合があった場合は、法規制等遵守指示書を発行し、すみやかに是正計画を提出させ是正を行います。

環境法規制等の対象部門となる東京シマダヤ(株)や開発研究所などでは、内部監査においても法規制等の遵守状況をチェックしています。

### 被害の拡大を防ぐために

東京シマダヤ(株)では、重油を3箇所の地下タンクに保管しているため、重油漏洩に備えて近くの容器に砂を用意しています。2006年7月のISO14001の維持審査において、「緊急時に砂だけで被害の拡大を防げるのか、土嚢を用意したほうがよいのか

検討することが望ましい」と改善事項を提示されました。それを受けて検討した結果、砂の配置に加えてオイル吸収マットを新たに設置しました。

### 避難訓練実施

当社では、毎年1回避難訓練を実施しています。

恵比寿にあるシマダヤ(株)の本社では、渋谷消防署のご協力により、2006年9月7日に自衛消防訓練を実施し、社員約50名が参加しました。通報訓練、避難訓練および練習用の消火器を用いて消火器の使い方を実践しました。

シマダヤロジスティクスセンターは、(株)日立物流の建物に同居しているため、(株)日立物流の自衛消防隊組織に参加し、合同で訓練を行っています。

東京シマダヤ(株)では、2007年3月5日14時より、2006年度の消防計画に基づき昭島消防署の立会いの下において緊急避難訓練を実施しました。東京シマダヤ品質管理室からの火災発見連絡を発端に訓練が始まり、参加人数85名(シマダヤ(株)開発研究所、品質保証部含む)が問題なく避難を完了、次いで消火訓練を行いました。また今回は消防署による火災救助と消防車での消火活動の実演を見学させて頂きました。訓練の結果として緊急事態手順書の6箇所を見直し改訂することになりました。



●消火器の使用実践



●本社避難訓練の様相

## 業務のあらゆる段階で、様々な取り組みをしています

### 研究生産段階で…

#### 東京シマダヤの取り組み

東京シマダヤ株式会社では、環境保全活動として次の6項目を中心に活動しています。

- ①水使用量の削減
- ②電気使用量の削減
- ③廃棄物の削減
- ④廃包材の削減
- ⑤重油使用量の削減
- ⑥騒音対策

まずは、水の削減です。東京シマダヤの使用水は名水といわれる多摩の地下水です。ゆでめんを作る上で重要な原料のひとつとなります。また、製造機器の清掃時には多量な水を必要とするため、限りある資源としての地下水を有効に利用することはとても大切です。製造する商品を切替える間、シャワー水を停止したり、ゆで後のめんを冷却する際の粗熱をとる水洗水を他用途に再利用、また総務課が地下水揚水使用量を毎週報告し作業員が共有するなど、全員で取り組み大幅な削減が出来ました。

次に電気の削減です。製造工場は、電気を大量に消費する機械が存在します。製造商品の切替えの際に、使用していない機械停止の徹底。各職場や共用部分の蛍光灯は、使用しない間は積極的に消灯したり、業務終了後の消し忘れに対して、警告票にて注意を促すなど全員参加で削減に取り組みました。

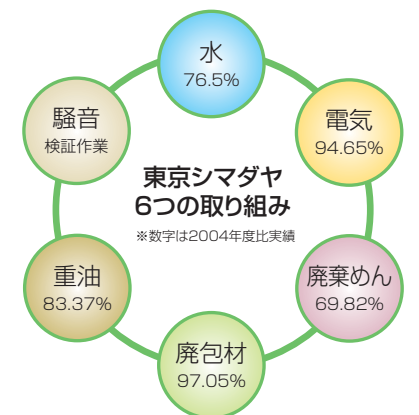
3つ目は、廃棄物の削減です。生産においては、各職場で1本の麺を大切に扱う意識で取り組んできました。製めん工程では、めんカスの量を測りロールの調整などを実施しています。またゆで工程から包装されるまでに、ライン上に麺が残らずにパックされるよう移し替え

部分の装置は、1mm単位の加工や調整を実施しています。

4つ目は、廃包材の削減です。包装トラブルの発生により無駄な包材が出るのを防ぐため、製造課包装室が中心となり、安定した作働が出来よう週1回の包装機メンテナンスを実施しています。また、担当者の包装機取扱技術力の向上を図るべく教育を実施してきました。

5つ目は、環境負荷上大きなウェイトを占める重油の削減です。製造時の熱源として重油の燃焼により水を沸かした蒸気を使用します。製造商品切替え時など、頻繁なバルブの開閉により節約に努めました。また生産中の蒸気の効率を上げるため出来る限り蓋をすることで削減に成功しました。更に蒸気使用量に応じ最適化された台数のボイラー運転を行うことで無駄を無くしてきました。

最後に騒音対策です。現状では、必要とされる箇所の対策の実施とその検証作業を行っています。生産工場も地域の住民の皆様と共存していかなければいけません。不快な音が出ないように、現状の把握と法令遵守に則った対策を随時実施していきます。



### 工場改築に伴う環境配慮とダンボールの変更

#### ■シマダヤグループの工場設備に対する方針

工場設備ライン更新・改造時に、環境に配慮した省エネルギー化、ライン効率化、新規技術の導入、安全対策の重要視。

シマダヤでは、2006年に子会社である中部シマダヤ(株)(冷凍めん工場)の改修工事を実施しました。これは、製造能力の増強及び冷凍保管倉庫の自動化を目的とし、ライン及びゆで槽の変更とダンボール形態の変更を行ったものです。

#### 【不要設備廃棄の削減】

今回の工事では、上記項目はもとより効率的なライン設計を特に重視して設計施工を行ないました。

工事に先立ち、環境に配慮するため既存の設備を可能な限り利用できないかという観点から、全部新規の機械を導入した場合と既存機を再利用した場合の検証を行い、既存機で問題ないことを確認しました。その結果、改造は施しましたが既存機をそのまま使用したことにより、既存機械約185㎡分の廃棄を削減することができました。

#### 【環境に配慮したゆで槽の導入】

ゆで槽の工夫により、ゆで時間が短い商品を生産する際に、使用熱量を削減できるようにしました。

また、新しいゆで湯熱回収装置(製造終了後のゆで湯を熱交換器で熱交換して、新しい同量の水を温めタンクに貯めて利用する装置)を導入し、既存の装置と合わせて計2基で熱交換効率を上げました。

さらに、ゆで湯補給水用熱交換器を導入しました。従来は、製造中ゆで槽に水を補給した際に溢れたゆで湯は、そのまま排水されていました。この装置は、溢れたゆで湯を熱交換し、補給水の温度を上げて供給することで、ゆで槽のゆで湯温度維持に使用する蒸気熱量を減らすことができます。

以上の環境配慮型ゆで槽を導入することにより見込める削減熱量は、A重油換算で275kℓ/年を見込んでいます。

※A重油発熱量9,340kℓ/ℓとし、年間稼働時間による推計

#### 【ダンボールの形態変更】

ダンボールの形状を一般に流通している底面と天面をテープ張りする形状(A式)から、ラップラウンド式という形式に変更しました。これは、ダンボールシートに製品が包み込まれるように包装される方式で、一般的に缶ジュースなどの包装に利用されています。この形式にすることで、年間ダンボール面積178,560㎡(17.86ha)の削減が見込めます。

※使用ダンボール面積:単箱40入で8,200㎡→6,600㎡で20%減、単箱20入で4,600㎡→4,200㎡で8%削減見込み。年間想定使用量で計算



●旧(A式)

●新(ラップラウンド式)

研究生産段階で…

容器包装削減、廃棄資材削減のために

シマダヤでは、排出抑制のために2005年度下期より容器包装の削減に取り組んでいます。2006年度は家庭用商品27商品について、外袋のサイズの短縮(5mm~10mm短縮)、または厚みを薄くする(5μ~10μ)取り組みを実施し、その結果、10,973kg削減することができました。

また、包材製造業者において発生する不良品の削減にも努めています。例として素材型商品の包材の色数を1色減らすことで、印刷時の色ずれにより発生するロスの減少につながります。

他に、つゆや具材類は、一度に製造する量が多く商品廃棄や過剰に印刷し廃棄となる包材が多く発生しがちです。また、「長持ち麺」などの賞味期限の長い商品に添付するものは、賞味期限切れにより使用が出来なくなることが起こりがちです。このため、マーケティング部や生産管理部が関係各部門やメーカーと連絡をとりながら適切な在庫管理を行い、発売前から発売後まできめ細かい対応をしています。

容器包装リサイクル法へ対応するため、当社も指定法人と再商品化委託契約を行っています。2005年度の特定期容器使用量は約2,007,000kgでした。

2007年度も引き続き、容器包装の削減を進めてまいります。



●外包装のサイズを短縮した商品

食品リサイクル法対応

製造工場、輸配送拠点で発生する商品廃棄(需給のずれ、販売見込みのずれ等)は、冷蔵・冷凍品であるため、基本的に全量が飼料化原料としてリサイクルされています。東京シマダヤ及びロジスティクスセンターで発生した廃棄めんは、茨城県の飼料化工場に委託し、飼料原料として再生利用されています。また本社では、商談で発生する調理残や期限切れの商品見本がありますが、その特性上飼料化できないため、東京スーパーエコタウンにあるバイオエナジー社に委託しメタンガス原料としてリサイクルしています。

今年度から大阪支店で発生する廃棄めんは、三重県の飼料化工場に委託し、リキッドフィードとして養豚の飼料として再生利用を始めました。また冷凍めん物流拠点で発生する賞味期限切れの商品廃棄についても、愛知県の飼料化工場に再生利用の委託を始めました。

製造販売数量の増加により食品廃棄物量が増える傾向があるため、中期環境目的・目標にも掲げていますが食品メーカーの責務として、引き続き減量化とリサイクルに出す比率を高めていきます。

オフィスでの取り組み

オフィスでは、省エネ・省資源に取り組んでいます。

OA用紙は、メール等の活用、両面印刷、裏紙利用など全員で削減に取り組んでいます。

電気の削減については、昼休みの消灯、使わない部屋の消灯、席を離れる際はパソコンの画面を省エネモード(節電モード)にするなどの取り組みを実施しています。また、2007年度よりクールビズを実施しています。室温を28℃に設定するために、本社では、窓に遮光フィルムを貼る、空気を循環させるために扇風機を設置する、などの設備改善を行い、期間中は軽装での対応およびお客様にも軽装での来社を呼びかけています。

また、事務用品を中心にグリーン購入に取り組んでいます。注文の際は、カタログを参照し環境に配慮した商品を注文しています。

廃棄物の削減のために、ごみの分別を継続して実施しています。また、紙・ダンボール・缶・びん・ペットボトル・食品残さおよび蛍光灯は、リサイクルに出しています。リサイクル率は、毎月およそ80%台を推移しています。



●オリジナルのクールビズポスター作成  
[Photo by (c)Tomo.Yun (http://www.yunphoto.net)]

環境意識を高めるために

当社では、継続的に環境に関する教育・訓練を行うと同時に、社内報やパソコンを通じて環境意識を高めるためのコミュニケーションを行っています。

【教育・訓練】

当社では、計画的に環境教育のための研修を実施しています。2006年11月には、役員・部門長に対する研修で外部講師によるCSRに関する講義を受けました。また、各部門の現状の課題を洗い出し、テーマ毎に解決策を検討、その結果を「中期環境目的・目標」としてまとめました。

2006年度実績

・新入社員研修	1時間	9名
・新任環境推進担当者研修	3時間30分	15名
・エコ・ネイションゲーム	2時間30分	24名
・内部監査員養成研修	2日間	1名
・役員部門長研修	1日間	27名

他にも、各部門において必要な環境管理に関する教育内容を「専門教育ニーズ一覧表」にまとめ、適宜必要な研修に参加させ、必要な資格取得を推進しています。また、環境推進担当者を中心に2006年度より始まった商工会議所主催のeco検定受験を推奨しシマダヤ(株)と東京シマダヤ(株)であわせて12名が受験し、全員が合格しました。

【コミュニケーション】

環境推進担当者会議を年に4回開催しています。半期に1度、各部門の目的・目標に対する進捗および結果の発表、環境に関する勉強や議論などを行い、問題を共有化しています。

2006年は初めて環境報告書を発行したため、各部門を回り環境報告書説明会を実施しました。積極的な情報公開の必要性、報告書の内容の説明、取り組みの成果などを説明しました。その後質疑応答を行い、共有化を図りました。

社内報「Happiness」に、環境に関する話題を適宜掲載し、啓発を行っています。また、社内イントラネットに「環境のひろば」を開設し、いつでも環境関連情報が見られるようにしています。



●役員部門長研修



●新任環境推進担当者研修

環境活動をチェックするために

当社では、環境マネジメントシステムの運用を管理するために、定期的な内部監査の実施と外部機関の審査を受けています。

【内部監査・外部審査】

年に1度全部門を対象に環境活動の取り組みについて内部監査を実施し、環境マネジメントの維持向上に努めています。2007年5月現在、内部監査員は36名で2007年中に数名増員する予定です。内部監査を実施する前に、内部監査員全員を集めて本年度の監査方針の説明や、監査のロールプレイングなどを行い内部監査についての共有化や技量向上を図ってから、内部監査を実施しています。

また、(財)日本規格協会審査登録事業部による定期的な審査を受け、2007年2月に審査登録を更新しています。

【マネジメントレビュー】

毎年12月、内部監査の結果を受け、その年の環境マネジメントの成果を社長に報告しています。

2006年度は、中期的な全社の環境目的を明確にするとともに、シマダヤグループ全体の環境パフォーマンスを可能な限り明確にするよう指示を受けました。それに基づき中期環境目的・目標を定めるなど環境マネジメントの見直しを行い、継続的な活動の改善を行っています。



●内部監査

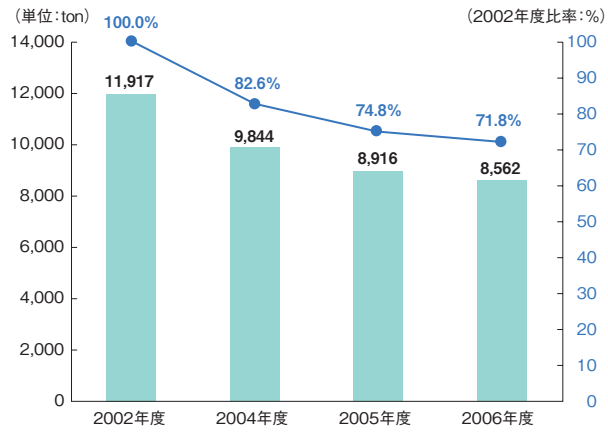


●更新審査

# エネルギー・廃棄物の削減に努めています

## CO<sub>2</sub>排出量の推移

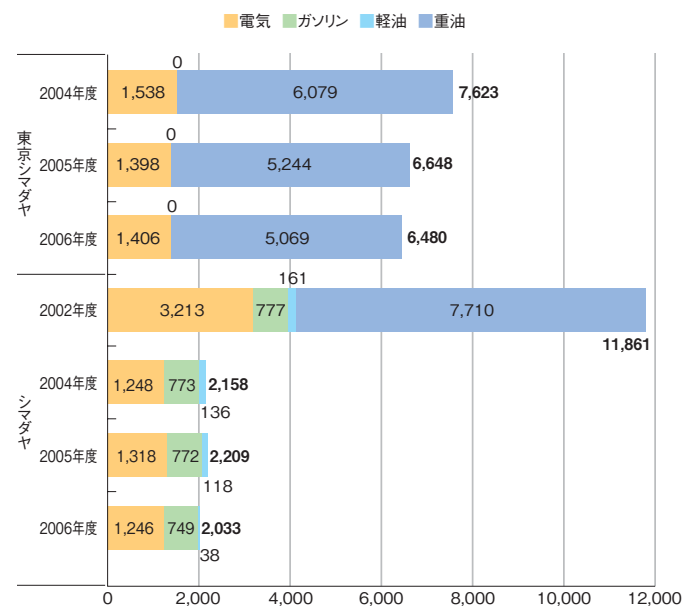
シマダヤでは、省エネルギーを実践しCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。2005年度の排出量から354トン削減し、記録を始めた2002年度からは約3割近く削減しました。



## エネルギー種類別のCO<sub>2</sub>排出量

エネルギーの種類別に見ると、東京シマダヤにおける重油の使用によるCO<sub>2</sub>排出量が最も多くなっています。2005年度は製造数量が減少し、2006年度は再度製造数量が増加したにもかかわらず、現場での工夫により重油の使用量が削減しています。シマダヤ単体では、電気とガソリンの使用量が多く約96%を占めています。今後も引き続き、使用量の削減に向けて、より一層の工夫と努力をしていきます。(2004年に東京工場を分社化したため、シマダヤの重油使用量は東京シマダヤに引継がれ、使用量が減少しています。)

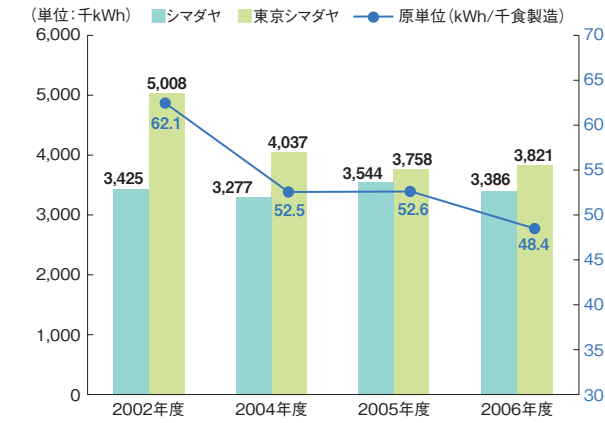
※温室効果ガス排出係数: 環境省地球環境局・事業所からの温室効果ガス排出量算定ガイドライン・電気は東京電力の係数を参照



注: 原単位について 原単位は次のとおりです。シマダヤは千食販売あたりの使用量。東京シマダヤは、千食製造あたりの使用量。

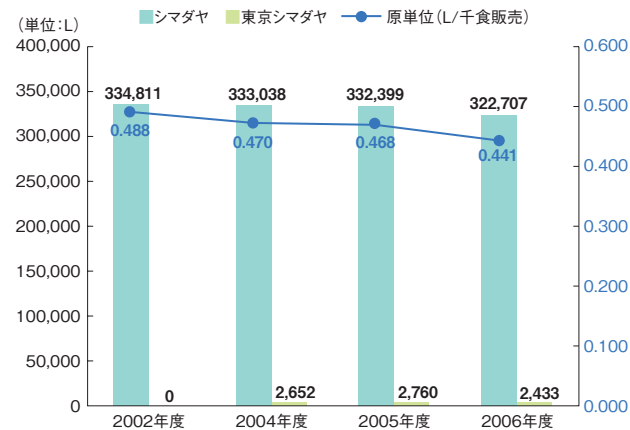
## 電気使用量の推移

シマダヤでは、オフィス部門において使用していない部屋の消灯や昼休みの消灯の推進、エアコンの調節(冷房28℃、暖房21℃)等の努力をした結果、4.5%削減しました。東京シマダヤでは、2006年度に製造数量が増加したため1.7%増加しました。



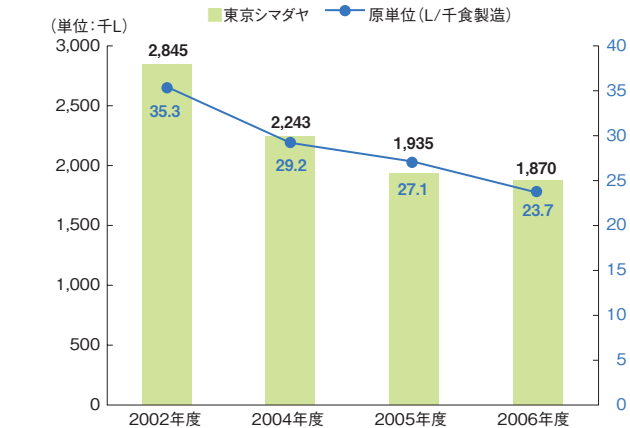
## ガソリン使用量の推移

ガソリンは、営業部門においてエコドライブや回訪の効率化等を目標に掲げ、削減に取り組んでおり、わずかに減少しています。東京シマダヤでは2005年度より11.8%削減しました。



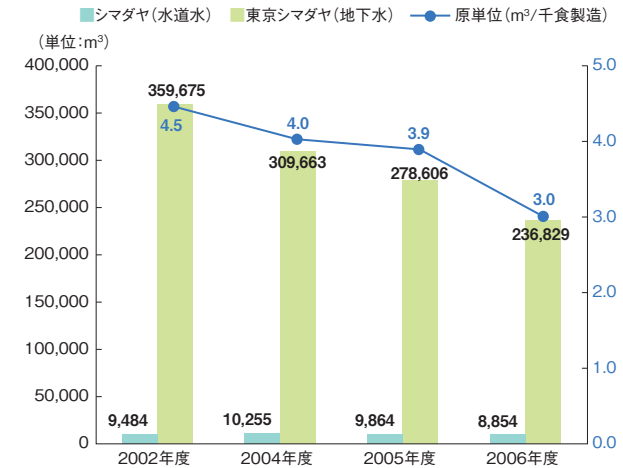
## 重油使用量の推移

東京シマダヤでは、2006年度に製造数量が再度増加したにもかかわらず、現場での様々な改善及び従業員の意識向上により、3.4%削減しました。(2006年版の凡例で原単位を「KL/千食製造」と記載しましたが「L/千食製造」の誤りでした。)



## 水使用量の推移

シマダヤでは水道水を使用しており、2005年度比10.2%削減しています。東京シマダヤでは地下水を揚水して使用しており、2005年度比15%削減しました。



## 廃棄物の排出量

### ●一般廃棄物について

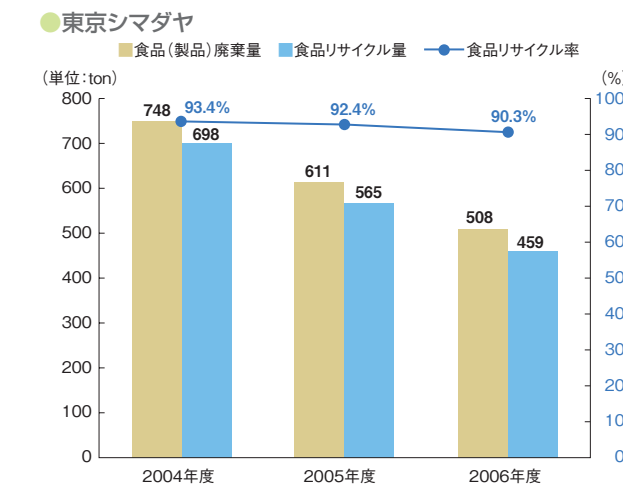
シマダヤの一般廃棄物の排出量は減少しています。そのうち、OA用紙や食品(商品見本も含む)を67%リサイクルしています。東京シマダヤでは、一般廃棄物の排出量が少なく、リサイクルは行っていません。

### ●産業廃棄物について

シマダヤの産業廃棄物の排出量は0.7%増加していますが、従業員の意識向上により増加率が抑えられています。主にSLCでの製品廃棄が多く、2004年度よりリサイクルに回しており、リサイクル率は67.6%です。東京シマダヤの産業廃棄物は食品残さなどがほとんどです。製造数量が増加したにもかかわらず、排出量を大きく減らしています。歩留りの向上や産業廃棄物削減活動の成果が出ています。

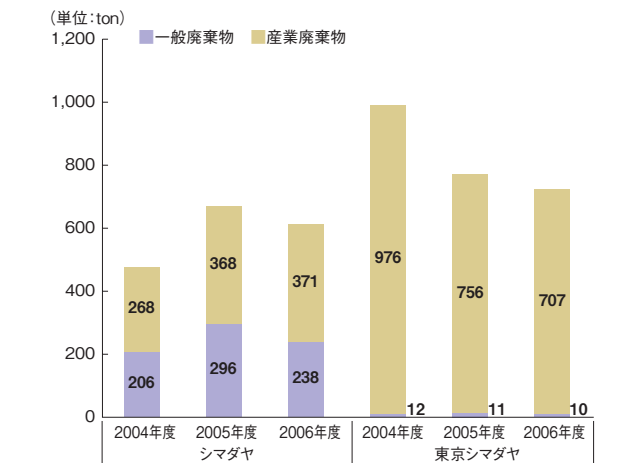
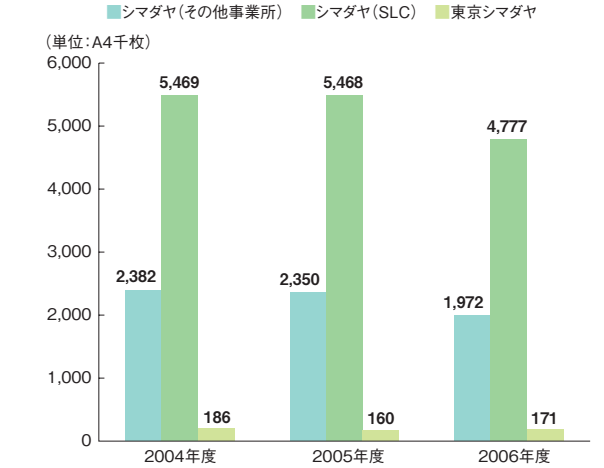
## 食品リサイクルの取り組み

東京シマダヤ及びシマダヤで発生する食品廃棄(食品残さ)は飼料原料やメタン原料として、業者に委託しリサイクルしています。東京シマダヤでは発生抑制に努め、2006年度は2005年度より16.8%削減しています。リサイクル率は、90.3%となっています。

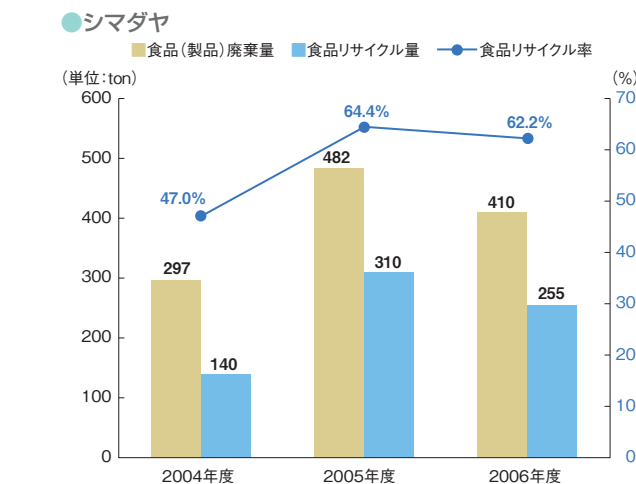


## OA用紙使用量の推移

シマダヤでは、本社及びシマダヤロジスティクスセンター(SLC)での削減が大きくシマダヤでは13.7%削減しました。東京シマダヤでは使用量は少ないですが、7.3%増加しています。



シマダヤ単体では、2005年度より72トン削減し、リサイクル率は62.2%となっています。今後も引き続き、排出量削減とリサイクルを推進していきます。





## みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

シマダヤ株式会社はチーム・マイナス6%に参加しています。

### 環境報告書に関して

#### シマダヤ株式会社

- お問合せ先 人事総務部
- 所在地 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11  
TEL.03-5489-5511 FAX.03-5489-5507



この印刷物は、有害廃液を排出しない「水なし印刷」方式を採用しています。またインキには、VOC(揮発性有機化合物)成分フリーのインキを使用し、適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。